専門研修プログラム名	浜野ホスピタル　専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人寛裕会　浜野ホスピタル
プログラム統括責任者	森永頼鷹

専門研修プログラムの概要	本プログラムは地域精神科医療の中核を担う180床の当院を基幹施設とし、東京女子医科大学病院および同八千代医療センターと連携した密な研修体制を構築している。当院の豊富な症例と3名の指導医によるきめ細かな直接指導を通じ、急性期から地域移行支援までを実践的に習得する。さらに、女子医大グループとの連携により、高度なリエゾン精神医学、児童思春期、精神科救急等の専門領域を網羅し、専門医認定に必要な全疾患群（F0～F9）を確実に経験できるローテーションを実現した。地域医療の実践力と大学病院の学術性を兼ね備え、多職種チーム医療のリーダーとなれる専門医の育成を目指す。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	本プログラムは３年間を通じ、基幹施設である当院と連携施設である東京女子医科大学病院、同八千代医療センターを段階的に循環する。初年度は女子医大グループにて、大学病院ならではの高度リエゾン精神医学、児童思春期、精神科救急等の専門領域の基礎を学び、広範な精神医学的知見を養う。２年目以降は基幹施設である当院の１８０床の臨床環境を活かし、３名の指導医による直接指導のもと、統合失調症や気分障害等の入院・外来診療の主治医として地域精神科医療の実践力を確立する。全期間で週１回の症例検討会とポートフォリオ作成支援を行い、アカデミックな視点と地域医療の現場感覚を兼ね備えた専門医を段階的に育成する。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	女子医大等での高度リエゾンや救急、児童思春期領域に加え、アルコール・薬物依存症の診断・離脱管理・再発予防および地域支援に関する知識と技能を修得し、当院の単科精神科医療にて急性期から地域移行までの実践力を養う。多職種連携を重んじ、倫理観と責任感ある診療態度を確立する。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例検討会では、３名の指導医による直接指導のもと、診断の妥当性や薬物療法の最適化について多角的な検討を行う。また、多職種参加の退院支援カンファレンスを通じ、チーム医療の実践に必要な調整能力と倫理観、患者中心の視点に基づく適切な診療態度や地域連携の実践力を段階的に醸成する。
	学問的姿勢	最新の知見に基づき、科学的妥当性と倫理観を重んじて臨床研究や学会発表に励む。女子医大等との交流を通じ、精神医学の進歩を常に学び続ける生涯学習の姿勢を確立する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	高い倫理観に基づき、患者の権利と尊厳を尊重する誠実な診療態度を貫く。多職種チームのリーダーとして円滑な連携を図り、地域医療資源を適切に活用する社会性を備える。自らの限界を認識し、真摯に研鑽を積むことで、社会から信頼される精神科医としての素養を確立する。
	年次毎の研修計画	初年度は女子医大にて高度救急やリエゾン、児童精神医学を学ぶ。２・３年目は基幹施設の当院にて、１８０床の臨床環境を活かし主治医として地域精神科医療の実践力を養う。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	研修施設群と研修プログラム	基幹施設の当院１８０床と女子医大グループが連携し、単科病院の地域医療実践と大学病院の高度専門医療を補完し合う。全疾患群を網羅し、地域完結型の精神科医療を担う専門医を、施設群一丸となり段階的に育成する。
	地域医療について	新設の訪問看護ステーションを活用し、アウトリーチや多職種連携を深く学ぶ。１８０床の入院機能とシームレスに繋がる地域生活支援を経験し、地域精神保健の中核として患者のＱＯＬ向上に寄与できる専門医を育成する。
専門研修の評価	学会基準に則り、３名の指導医が研修ログやポートフォリオを定期的に確認し、客観的なフィードバックを行う。自己評価に加え多職種評価を導入し、臨床技能や倫理性、連携能力を多角的かつ公正に判定する。未到達項目は女子医大等と連携し補完し、専門医取得を確実に支援する。	
修了判定	日本精神神経学会の基準に基づき、全疾患群の症例経験とポートフォリオの受理、指導医３名による最終評価を経て、統括責任者が修了を判定する。女子医大等での研修実績も含め、専門医試験の受験資格を確実に満たしていることを確認し、機構へ報告する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	統括責任者と指導医、連携施設担当者で構成し、研修進捗の管理やプログラムの改善を行う。専攻医の労働環境や心身の健康を監視し、質の高い教育体制を維持・運営する。
	専攻医の就業環境	週32時間の研修時間を確保し、当直や超過勤務を厳格に管理する。3名の指導医による健康管理と適切な対価支給を徹底し、育休等の不測の事態には女子医大等と連携して柔軟な復帰や継続を支援する体制を整えている。
	専門研修プログラムの改善	専攻医の自己評価や指導医のフィードバック、外部評価を基に管理委員会で年１回改善を行う。女子医大等と連携し、症例充足状況や研修環境を精査し、柔軟な更新を継続する。
	専攻医の採用と修了	採用は、当院および女子医大等の連携施設担当者による書類選考と面接で公正に行う。修了は、学会基準の症例経験とポートフォリオ受理、指導医３名による最終評価を経て、プログラム管理委員会が客観的に判定し、統括責任者が認定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専攻医の健康、育休、転居等の不測事態に対し、日本専門医機構の規定に基づき休止や中断を認める。プログラム間移動は、専攻医の不利益を避け、十分な協議の上で承認する。女子医大等でのプログラム外研修は、教育的必要性と全疾患群の経験に資する場合に限り、計画的に実施する体制を整える。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	実地調査の際は、プログラム管理委員会が中心となり、施設見学や指導医・専攻医への面談に全面的に協力します。得られた指摘を真摯に受け止め、研修の質向上に繋げます。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	病院長　西村勝治、名誉院長　石郷岡純、副院長　森永頼鷹	

Subspecialty領域との連続性	日本精神神経学会の認定専門医取得を基盤とし、女子医大等の連携施設での研修を通じて、精神科救急や児童思春期、リエゾン精神医学等のサブスペシャリティ領域への円滑な専門研修移行と、各学会の認定資格取得を支援する。